

中央手術部

1. スタッフ

部長（教授）小西 宏明
 副部長（准教授）五十嵐 孝
 （准教授）堀江 久永
 （医員）川上 賢幸
 岡田 修
 茂木 康一

2. 中央手術部の特徴

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14（2002）年8月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。手術室の構造は回収廊下型となっており、清浄度クラス1,000の手術室4室とクラス100の手術室が13室の合計17室で構成されている。その後産科専用手術室2室、さらに子ども医療センターに小児心臓外科手術室1室が追加されている。

（1）診療記録の電子化

2002年の新棟移転とともに、病院情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化がおこなわれ（J-CAN：Jichi-Clinical Advanced Network System）が可動している。2006年からは院内の電子カルテシステム（JUMP：Jichi Medical University Universal Medical Information Program）と連携しており、手術申し込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となった。ただし物流システムとのオンライン化は行っていない。

（2）中央材料室

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、選任の看護主任を配置し、手術機器の点検、消毒業務の指導を行い、中央手術部との密接な関連のもとに運営されている。

（3）先端医療機器の設置

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

手術件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
H19年度	688	651	724	773	782	638	768
H20年度	717	666	725	779	734	665	754
H21年度	743	565	792	856	732	687	726
手術件数	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H19年度	792	667	701	741	747	8,672	
H20年度	656	688	679	713	791	8,567	
H21年度	703	698	675			7,177	

4. 事業計画・来年の目標等

平成20年度から21年度にかけては手術件数の増加に対する調整がなされてきた。しかし21年度後半からは手術件数に比して手術時間ならびに手術室占有時間の増加が顕著となっている。これは難易度の高い手術や重大な合併症を有する患者の手術が増加しているためと考えられる。高度医療を担う病院としては当然の帰結と言えるが、依然として手術待機時間が延長せざるを得ないことは大きな問題である。来年度に向け、当院で受け入れ可能な手術の総枠についての根本的な検討が必要と考えられる。